

『トランスアトランティック・モダン—大西洋を横断する美術』

2002年9月，みすず書房刊

村田 宏

大西洋という交通空間を議論の枠組みとしながら，主として1920～30年代のフランスとアメリカの美的交流という，これまで未開拓であった領域について，いくつかの顕著な事例に即しつつ，その実質の一端をあきらかにした著作である。その主要な関心は，1910～20年代にフランスで顕著となった「Américanisme（アメリカ主義＝アメリカおよびアメリカの事物を礼讃する立場）」と，アメリカにおける「Americanness（アメリカ的であること）」の問題が両国の美術の創造とどのように結びついていったかをあきらかにするということがある。概要を記せば，以下のようになるだろうか。

まず序章において，1910～20年代のフランスの芸術家たちの間に，大西洋の彼方のアメリカに対して，羨望とも畏敬とも称しうるある特別な感情が芽生え，それが同時代の美的活動にいかにか濃く長い影を落としていたかをあきらかにする。そのための分析装置として，パリのシャトレ座で初演されたバレエ劇《パレード》（1927年5月18日）の登場人物の一人〈アメリカの少女（jeune fille américaine）〉に着目する。〈アメリカの少女〉は，フランス/アメリカの美的交感の劇を指し示すまたとない表象であるという結論に到達する。このあと，フランスの画家（デュシャン，ピカビア）が，アメリカの若き芸術家たちにアメリカに生きる芸術家としての意識を覚醒させ，模範とすべきヨーロッパ美術の「呪縛」からの解放を促していった経緯を検証し（第一章），その「アメリカへの回帰」ないし「アメリカの自覚」を，さらに20世紀の代表的建築家の一人フランク・ロイド・ライトの作品のなかを探った（第二章）。つづいて，第一次大戦後のフランスにおいて古典古代のギリシアへの憧憬が，いかに根強く共有されていたかをあきらかにした。すなわち，1918年から1927年の兩次大戦間の，いわば明晰さと偉大さを求めた絵画を取り上げて，それらが画家たちのいかなる歴史的思考，ないし歴史意識と結びつき，いかなる具体的な論点を展開させていったかを解明した（第三章）。画家レジェが，映画《バレエ・メカニック》制作にあたって，パウンド，マン・レインら，4人のアメリカ人の助力を得ていたという事実をあらためて指摘し（第四章），ついでアメリカの画家マーフィーの作品を考察の対象として，彼と交渉を持ったピカソや，レジェ，あるいは，スーポーら一連の詩人たちのあいだに広まっていた「アメリカ熱」を，より広範な1920年代フランスの「アメリカ礼讃」の問題として論じた（第五章）。そして，画家フェルナン・レジェにもう一度焦点をあわせ，ソヴィエト国家に対する，ほとんど過剰なまでの夢と憧憬が，さながら熱病のように広まった1930年代の特質をたどりなおし，1937年パリ万

国博覧会に展示されたレジェの《力の伝達》が、作者がソ連への期待と共鳴を盛りこんで作品であった可能性を、画家の親ソ的な人的交渉のありようを視野に収めつつ論じた。20年代から30年代への移行につれ、フランスとアメリカの美的交感の劇に、あらたに革命の祖国ロシアが加わるという図式が成立する。端的には「パリ、ニューヨーク、モスクワ」が、30年代のレジェ芸術に欠くべからざる都市名として記憶されることになる。そして最後に、キューバからスペイン、フランスを経て再びキューバに帰還した画家ラムの作品の再検討を通して、「トランスアトランティック」のテーマが、じつは20世紀美術の底部を支える重要な問題であることを示唆しようとした（第八章）。本書は、こうして美術はもとより、建築、映画、演劇といった多様な領域に視線を届かせることによって、部分的ではあれ、いわば「大西洋に交錯する美的想像力」の系譜を浮かび上がらせる一書となっている。「トランスアトランティック」とは、いわば「創造者のノマド的ありよう」を指し示しながら、場所の移動がもたらす豊饒な芸術創造のメタファーなりえているのである。

幸いにして、いくつかの書評で取り上げられ、好意的な紹介をいただいたことを付記しておきたい。とりわけ②③では、ほとんど絶賛に近い評価が記されていた。これまでの研究の方向の正しさが認知されたことを嬉しく思う次第である。

書評掲載紙（誌）・評者

- | | | |
|------------|-------------|---------------|
| ①日本経済新聞 | 2002年11月10日 | 海野 弘 |
| ②図書新聞 | 2002年11月16日 | 星埜守之 |
| ③BT/美術手帖 | 2003年3月号 | 多木浩二 164～165頁 |
| ④フィガロ・ジャポン | 2003年5月5日号 | 185頁 |